

早稲田大学審査学位論文

博士（人間科学）

概要書

医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師における  
2 職種間の連携と退院支援実践力に関する研究

The Cooperation between Medical Social Workers  
and Discharge Coordination Nurses  
and their Practical Ability to Provide Discharge Support

2023 年 7 月

早稲田大学大学院 人間科学研究科

影山 康博

KAGEYAMA, Yasuhiro

研究指導担当教員： 扇原 淳 教授

# 医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師における 2 職種間の連携と退院支援実践力に関する研究

## The Cooperation between Medical Social Workers and Discharge Coordination Nurses and their Practical Ability to Provide Discharge Support

影山 康博 (KAGEYAMA, Yasuhiro) 指導：扇原 淳

### 第 1 章 社会的背景と本論文の構成

地域包括ケアシステムを支えるために、急性期医療機関における退院支援は重要である。この退院支援を主に担っているのは、医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）と退院支援看護師の 2 職種（以下、2 職種）である。本論文では、急性期医療機関の退院支援に関わる院内外が多職種のうち、この 2 職種のみを研究の対象としている。

### 第 2 章 診療報酬制度の変遷にみる医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師の配置体制と 2 職種間の連携

2008 年度診療報酬制度改定の「退院調整加算」から 2020 年度診療報酬制度改定の「入退院支援加算」までの変遷をたどり、急性期医療機関における MSW と退院支援看護師の配置体制と 2 職種間の連携について検討した。2 職種の配置体制と 2 職種間の連携は、これまでと同じくこれからも、2 年に 1 度改定される診療報酬制度と相互に影響し合い、より強いものに変化を遂げていくものとする。

### 第 3 章 医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師の 2 職種に焦点が当てられた国内文献の文献検討

MSW と退院支援看護師の 2 職種に焦点が当てられた国内文献 13 本の文献検討を行い、先行文献の動向と今後の研究課題に関して検討した。先行文献をトピックで分類すると、「技術や技術の特徴」、「判断プロセスの特徴」、「協働や役割・役割分担」、「退院支援および連携の課題」、「業務の認識やストレス対処力」、「コンフリクト」に大別された。

急性期医療機関の MSW と退院支援看護師においては、職種間で専門スキルの強みに差異があり、それぞれの強みを生かした 2 職種間の連携の強化は、退院支援実践力の向上に有用である。これを検証するためには、「2 職種間の連携の構成因子」、「2 職種の退院支援実践力（以下、退院支援実践力）の構成因子」、「2 職種における専門スキルの業務への影響」、「2 職種間の連携の退院支援実践力への影響」がトピックとなる研究が有益と考えたが、先行文献には見当たらず、本論文で行った。

### 第 4 章 医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師間の連携の構成因子に関する一考察（研究 I）

研究 I の目的は、急性期医療機関の MSW と退院支援看護師間の連携の構成因子を明確化することとした。

研究方法に関しては、調査対象者について、急性期医療機関で急性期病棟を担当する、MSW と退院支援看護師とした。データ収集方法について、全国 47 都道府県 251 機関の退院支援部門宛にアンケート調査票を郵送した。アンケート調査票の配布部数は、各機関で各職種同数として、MSW と退院支援看護師に各 523 部を郵送した。自記式・無記名式アンケート調査とした。調査内容について、アンケート調査票の質問項目は、属性（5 項目）、配置体制（3 項目）、2 職種間の連携（25 項目）、退院支援実践力（32 項目）、合計 65 項目とした。2 職種間の連携と退院支援実践力の質問項目は、先行文献も参考にしつつ、以下の手順で独自に作成した。まず、筆者が関係する 5 機関の MSW 5 人・退院支援看護師 5 人に対し、主として「2 職種間の連携」「退院支援実践力」に関して 30～60 分程度の非構造化インタビューを個別に実施した。ここまでで質問項目を暫定的に作成し、早稲田大学のソーシャルワーク研究者（教員および大学院生）との協議をそれぞれ繰り返し、退院支援に関する研究実績を持つ看護学研究者（大学教員）に助言を求めた。次いで、MSW 10 人・退院支援看護師 10 人を対象に、自記式・無記名式アンケート調査票による予備調査を実施した。2 職種間の連携と退院支援実践力の質問項目には、Likert Scale を用いて 6 段階評価とした。なお、上記の調査対象者・データ収集方法・調査内容に関しては、研究 I・研究 II・研究 III において共通である。分析方法について、項目分析では、天井効果・床効果の有無を確認し、Good-Poor Analysis を行い、Item-Remainder Correlation、項目の Cronbach の  $\alpha$  係数を求めた。因子分析では、最尤法、Kaiser の正規化を伴うプロマックス法を用いた。信頼性の指標として、因子の Cronbach の  $\alpha$  係数を算出した。倫理的配慮について、早稲田大学の「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を得て実施した。承認番号は 2018-161(1)であり、実施承認日は 2019 年 9 月 16 日である（研究 I・研究 II・研究 III にお

いて共通)。結果に関しては、分析対象者について、MSW154人、退院支援看護師172人、合計326人とした(研究Ⅰ・研究Ⅱ・研究Ⅲにおいて共通)。

結論として、急性期医療機関のMSWと退院支援看護師間の連携は、『連携できる環境体制の構築』『専門性を尊重したコミュニケーション』『相互のスーパービジョン』の3つの因子から構成されることが明らかになった。また、先行文献と比較して、これら3つの因子がMSWと退院支援看護師間の効果的な連携に必要と示唆された。

## 第5章 医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師の退院支援実践力の構成因子と職種間の差異；2職種における専門スキルの強み(研究Ⅱ)

研究Ⅱの目的は、急性期医療機関のMSWと退院支援看護師の退院支援実践力の構成因子を明確化し、両職種の実践力の差異を明らかにして、2職種における専門スキルの強みを探索することとした。

研究方法に関しては、分析方法について、項目分析は研究Ⅰと同じである。因子分析では、主因子法、Kaiserの正規化を伴うプロマックス法を用いた。信頼性の指標として、因子のCronbachの $\alpha$ 係数を算出した。また、回帰法で因子得点を推定し、職種別にその平均値を算出して、独立したサンプルのt検定を行った。

結論として、急性期医療機関のMSWと退院支援看護師の退院支援実践力は、【計画に基づく意思決定支援力】【医療的ケアの生活への融合力】【保健医療福祉サービス調整力】の3つの因子から構成されることが明らかになった。また、【医療的ケアの生活への融合力】では退院支援看護師の専門スキルにおいてより強みがあり、【保健医療福祉サービス調整力】ではMSWの専門スキルにおいてより強みがあり、2職種の強みを生かした連携が有用と示唆された。

## 第6章 医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師における2職種間の連携が退院支援実践力に与える影響(研究Ⅲ)

研究Ⅲの目的は、急性期医療機関のMSWと退院支援看護師における、2職種間の連携と退院支援実践力の相関関係と、2職種間の連携の構成因子が退院支援実践力に与える影響の度合いを明らかにすることとした。

研究方法に関しては、分析方法について、2職種間の連携における各項目の合計得点と、退院支援実践力における各項目の合計得点の2変数間で、2職種、MSW、退院支援看護師それぞれを分析対象に、散布図を作成して、Spearmanの順位相関係数を求めた。次に、2職種を分析対象に強制投入法による重回帰分析を行った。目的変数は、退院支援実

践力とした。説明変数は、2職種間の連携を構成する『連携できる環境体制の構築』『専門性を尊重したコミュニケーション』『相互のスーパービジョン』の3因子、個人要因の「職種」「性別」「医療機関就業年数」「退院支援経験年数」「職位」、環境要因の「病棟での配置体制」とした。なお、研究Ⅲの目的から、個人要因と環境要因については補足的に分析・考察を行うのみとして、これらの構成要素に関して詳細な調査を行っていない。多重共線性の有無については、上記9つの説明変数間におけるSpearmanの順位相関係数と、Variance Inflation Factorの値で確認した。また、残差の正規性を確認するために、Durbin-Watson比を求めた。

結論として、MSWと退院支援看護師の両職種にとって、2職種間の連携と退院支援実践力には正の相関関係があることを、視覚的および統計的に示すことができた。2職種間の連携が強くなるにしたがい、退院支援実践力は高くなる傾向があると言えた。また、研究Ⅱの結果を絡め、【医療的ケアの生活への融合力】では退院支援看護師の専門スキル、【保健医療福祉サービス調整力】ではMSWの専門スキルによって、それぞれの強みを生かした2職種間の連携の強化が、退院支援実践力の向上に有用と示唆された。さらに、2職種間の連携の構成因子が退院支援実践力に与える影響の度合いは、『連携できる環境体制の構築』、『専門性を尊重したコミュニケーション』の順に影響が強いと統計的に判断された。なお、『相互のスーパービジョン』に関しては、下位項目について再検討および追加することにより、退院支援実践力に影響していると統計的に判断される可能性が十分にあると考えた。以上のことから、急性期医療機関のMSWと退院支援看護師間の連携の強化が、退院支援実践力の向上に有用と示唆された。

## 第7章 本論文のまとめと今後の課題

MSWと退院支援看護師の2職種の強み・専門性や、2職種間の連携の必要性については、先行文献でも触れられている。しかしながら、統計分析に基づいて実証的に検討し報告する先行文献は見られない。本論文では、2職種間の専門スキルの強みの差異や、2職種間の連携と退院支援実践力の関連について、統計分析によって明らかにした。これらは、本論文の中でも特に独創性と新規性のある知見とすることができたと考える。また、本論文は、急性期医療機関の2職種間の連携が、患者・家族、および医療機関の経営に対して、より良い効果をもたらすことに着目している点でも新規性があると考ええる。本論文の知見は、急性期医療機関の2職種間の連携や役割分担のあり方に加えて、退院支援の質の向上を検討する際に有益な資料の一つになると考えられる。本論文は、QOLの向上やWell-beingの実現を目指す人間科学に貢献するものであると考えられる。